

The Japan Association of Radiological Technologists

ネットワーク・ナウ

Network Now

JART情報
<https://www.jart.jp>

2025 No.598

10 / 1

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階

TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



第41回日本診療放射線技師 学術大会 開催される (ハイブリッド開催)

第41回日本診療放射線技師学術大会を、2025年9月12日(金)から14日(日)までの3日間、福井県福井市のAOSSAなどを会場として開催致しました。本大会は「放射線技術のイノベーション」をテーマに掲げ、全国から約1,500人の参加者を迎えて行われました。

初日には開会式が行われ、永年勤続表彰や各賞の表彰式が執り行われました。またチーム医療推進委員会のシンポジウムでは、認知症診療における画像診断の進歩と多職種連携の重要性が議論されました。



JJ合同企画

2日目の会長講演では、「人口減少時代の日本診療放射線技師会の役割」と題し、2023年に策定された「JART Vision 2040」に基づき、今後、予想される課題に診療放射線技師がどのように対応していくのか、具体的な取り組みが紹介されました。その他、チーム医療推進、原子力災害時の多職種連携、STAT報告など、幅広い視点から診療放射線技師の未来を展望する内容となりました。



会長講演

また放射線管理士分科会では、福島原発事故や福井県での原子力防災訓練を踏まえ、災害時に診療放射線技師が果たすべき役割が報告されました。シンポジウムでは、医療被ばく低減施設認定やDRLs2025の運用など、医療被ばくに関する



開会式

村中大会長



オープニングセレモニー



海外からの来賓の方々

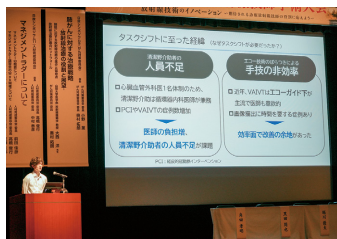
る最新動向が注目を集めました。FART企画2では、医師不足に対応するタスク・シフト/シェアについて議論され、FART企画3の「ドクターG」で知られる林寛之先生によるディスカッションでは、救急医療の現場で診療放射線技師が



医療被ばく安全管理委員会



DRLs2025



医師不足に対応するタスク・シフト/シエアの現状と課題

活躍するために必要な知識が伝えられました。会場は満席となり、入場できなかった方にはご不便をお掛け致しました。

夕刻には駅前広場で情報交換会が催され、各都道府県技師会から寄贈いただいた地酒や福井の名産を囲んで交流が深められました。

最終日には、医用画像管理やディスプレイに関する企画、さらに原子力災害時のリスクコミュニケーションに焦点を当てた多職種連携シンポジウムが開催されました。公認心理師との協働によるリスク説明や支援体制の構築は、従来の診療放射線技師業務の枠を超えた新しい展望を示しました。またSTAT画像報告委員会による企画では、救急医療で求められる迅速かつ精度の高い画像提供の技術や体制が議論され、参加者の高い関心を集めました。



林先生によるディスカッション



情報交換会

並行して行われたワクチン筋注行為に関する実技講習会には多くの受講者が参加し、今後、全国で展開されるための礎となりました。さらに特別講演として、恐竜化石のCT解析や地域企業の医療分野への挑戦など、福井ならではの特色ある企画も盛り込まれました。

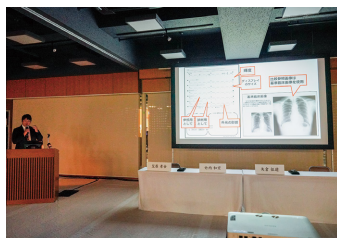
一般セッションは約340演題、国際セッションは8演題が発表され、若手からベテランまで活発な意見交換が行われました。特に、STAT画像、読影補助、AIや深層学習を応用した画像診断支援の研究は注目を集め、臨床応用を見据えた議論が展開されました。本年度初めて導入されたeポスター発表では、事前配信資料を踏まえた質疑応答形式が参加者に好評を博し、今後の新しい発表形態の一つとして期待されます。



eポスター発表



企業展示

eポスター発表優秀賞受賞者
(右から、勝浦拓也さま、
谷内田拓也さま、倉元達矢さま)会員向け無料コンテンツ
名称募集最優秀賞受賞者
(福島祐平さま)

医療画像情報精度管理士分科会



原子力災害時の多職種連携企画



STAT画像報告委員会



ワクチン筋注行為に関する実技講習会



次期開催県への鐘の引き渡し

次期開催の山形県放射線技師会
鈴木幸司大会長特別講演1 恐竜の秘密に迫る
～CTスキャンでの解析～特別講演2 衣料から医療への挑戦
～下町ロケット2の必要性「リアル」
ガウティ計画～

本大会を通じ、診療放射線技師が直面する人口減少、医療安全、業務拡大、AI時代への対応といった課題に対し、多方面から解決策や将来像が提示されました。全国から多くの参加者が福井に集い、活発な交流と学術的深化が図られたことは大きな成果です。今後も本大会で得られた知見を各地域での実践に生かし、診療放射線技師の役割拡大と社会的貢献の一層の推進が期待されます。

最後に、本大会の開催にご尽力いただいた実行委員会の皆さま、共催いただいた関係各位、そしてご参加くださった全ての皆さまに、この場を借りて心より御礼申し上げます。
(第41回日本診療放射線技師学術大会 大会長 村中 良之)

2024年度 永年勤続表彰者

2024年度の永年勤続表彰者が発表されました。おめでとうございます。

50年勤続表彰



■北海道	■秋田県	■福島県
今井孝一	吉田庄左衛門	森口節男
石岡亮		
■岩手県	■宮城県	■群馬県
工藤和美	半澤完二	宮澤康志
		高橋昇

■埼玉県	■山梨県	加藤金雄	■岡山県
藤田春光	植松修	白新美	近藤義昭
阿部一之			北山卓正
■千葉県	■長野県		■島根県
若松修二	岩原進		小松明夫
中野新			
■東京都	■石川県	■岐阜県	■福岡県
小高喜久雄	飯田泰治	池戸将人	荻野和寿
乙井不二夫			中居秀行
長野章	■福井県	■京都府	■奈良県
	清水勲一	梶本博	上野文男
	眞柄義一		駒木拓行
■神奈川県	■静岡県	■和歌山県	■長崎県
本田今朝男	廣瀬信雄	細川満	谷川正剛
田久治憲雄	塚本隆男		
千富芳文	■愛知県	■兵庫県	■宮崎県
松田	鈴木昇一	竹内一	小牧健次郎
	間瀬典和		

計46人

30年勤続表彰



■北海道	山口さや香	■群馬県	幸介美一
高田泰光		町吉須道	正雄裕一
宮崎千帆	■山形県	田田人	田山智順
目黒靖浩	夏井修	吉須永人	岩田橋一
富二仲伸	川合修	渡部弘圭	下石高博
杉本晴史	五十嵐昌洋	樋口圭安	高小西
寺田美博	神尾山	坂安	阿伊
堀内匡義	■福島県		
沢川隆明	高畑修一	■埼玉県	■神奈川県
内代本義	菅野真浩	山内辰雄	印南孝江
藤本隆明	佐藤浩	黒澤大勝	平野柳村
川藤珠一	相澤	采保本	青松村山
藤池地山	■新潟県	安藤金	西三宅
菊近英	飯塚明彦	齋富野三	堀山近盛
岩崎哲英	桑原山田	栗安武清	古
	米山後	加前	
■青森県	■栃木県	■茨城県	■千葉県
成田純子	高田英明	桐原直	外金小大
石谷智代	橋本隆俊	飯岡勝祐	利州雄文
森兵衛	大前瀧	荒宮星原	明亮樹久
		■秋田県	■長野県
		藤井真紀	竹奥花水
■岩手県			■東京都
山内裕之			関中佐々
遠藤和志			
村上健一			
■宮城県			
千板修子			
菅野朋宏			
菅原大雅			
菅原賢			

石川県	弘美夫明樹弥子美宏恵	滋賀県	則晶行巳努	山口県	範紀宏	大分県	肇哉史治和
市川	勝麻哲周秀哲洋麻崇	佃北井井佐	義千将治	品川	卓正省	東尻藤川山	慎泰清正
高松	永口本井田本原	村山田本中立	大靖久祐卓	重味	千恵子慎也	伊池近奥寺	人介
水作湊岩村岡菅		奥金吉山田足	樹人彦造亮也	古			
富山県	聡賀子照史男	奈良県	之輔明直悟誠巨	香川県	吉東	熊本県	雅真之介
吉富堀野谷	千和裕寿	細中小奥黒樋西	倫大広孝大恵	本	千恵子慎也	丸田	人介
福井県	成弘洋	和歌山県	健佳二伸	媛媛	秀一	宮崎県	秀淳
松荒山	和繁和	三木川		源菊池	秀一	大黒	嘉靖
静岡県	慎和敦一	大阪府	直樹	高知県	一浩也充則輝康	鹿児島県	男也古徳己
佐岡横和		兵庫県	裕修正	村北楠三下今中	浩保倫克吉洋	溝西元恵原	育辰重智勝
愛知県	緒利浩正春	三重県	繁佳潤満方輔	八井坂	一浩也充則輝康	冲縄県	也子英武夫也彦之月透二
小平平武山	香緒利浩正春	美		福岡県	嘉修由希子	永宮徳宮仲山大奥西普天福	倫真正篤篤達勝博睦良
	林松内田	美		上西古香	郁啓治子	田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	香緒利浩正春	美				田里田里田内城村改間	也子英武夫也彦之月透二
	林松内田	美				田里田里田内城村改間	也

計 322人

社会活動表彰 (江間賞) ならびに学術奨励賞受賞者

本会表彰規程より、江間賞は、前年度の社会活動カウントの上位取得者で社会活動の内容などが優れている者とし、地域性を考慮して、特に優れている者10人以内に授与されることになっています。



江間賞受賞者の方々



学術奨励賞受賞者の方々

また学術奨励賞は、積極的な自己研鑽により診療放射線技師としての資質向上に努め、医療および公衆衛生の普及および向上に貢献した者に授与されることになっています。対象者は表彰を受ける前年度の本会生涯教育カウントの取得上位者となっています。

受賞者は下記の通りです。おめでとうございます。

なお、本会表彰規程により、授賞式は第41回日本診療放射線技師学術大会（福井県）において執り行われました。

江間賞	学術奨励賞
大野 肇	山下 幸 孝
續橋 順 市	高橋 伸 光
沼本 健 一	飯田 想
藤井 雅 代	河田 皐
高橋 真	細川 凌
奥中 雄 策	庭山 洋
石橋 徹	瀬崎 英 典
本田 勝 己	松尾 俊 哉
澤木 福 光	
沖野 智 香	

(順不同)

告示研修 開催報告

石川県

公益社団法人石川県診療放射線技師会 会長 石黒 充

2022年1月の第1回開催から、コロナウイルスの影響による中止も含め、今回で通算16回目となる告示研修が、2025年7月26日(土)に金沢大学医薬保健学域保健学類1号館で開催されました。当初はファシリテーター7人とスタッフを合わせた9人態勢で2日間連続開催しており、非常に大きな負担を強いられていましたが、現在はファシリテーターが15人に増員され、開催日ごとに役割分担を行うことで、人的な負担は大きく軽減されました。一方で、昨年ごろからは受講者数が定員を大きく下回る傾向が続き、県内の受講者が減少する一方で、県外・遠方からの参加者が目立つようになってきています。しかしながら、研修の性質上、物品の準備や実技に必要なファシリテーターの人数を削減することは

困難であり、そのため県の経費負担は増加傾向にあります。

本年度は地方開催の最終年度に当たり、石川県内はもとより、北陸地域の未受講者に対して、9月開催の最終回の受講をご案内し、定員を満たすよう広く周知してまいります。昨年度までにおける県内会員の受講率は76%、診療放射線技師全体では71%(JART調べ)と報告されています。本年度の開催をもって、受講率80%の達成を目標に、スタッフ一同努力してまいります。

最後に、本研修の開催に当たりご尽力いただきました放射線科医師、看護師、ファシリテーターの皆さま、ならびにホーム研修会場としてご協力いただきました金沢大学医薬保健学域保健学類の関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。



栃木県

一般社団法人栃木県診療放射線技師会 会長 吉成 亀蔵

栃木県診療放射線技師会では、会員が十分に受講機会が得られるよう年間5回の開催を計画して進めてまいりました。初年度はコロナ禍の影響で開催が中止になったこともありましたが、本年度で最後の年となり、トータル20回の開催で終了する運びとなります。

会場は宇都宮市を中心とした開催(栃木県総合文化センター)と県北での開催(国際医療福祉大学 大田原キャンパス)として受講していただきました。当初は県内の会員に受けていただけたと思っておりましたが、他県からの受講者が思っていたより多く見受けられました。また本年度初回の開催では定員の48人の受講があり、未受講者も最後の開催年であることを意識していると思われました。

栃木県ではファシリテーターとして13人を確保して行ってきましたが、初年度より7月から11月にかけて開催し、5カ月連続で日曜日を返上して協力いただき感謝を申し上げます。開催を重ねるたびに要領をつかみ、準備も早くこなせるようになってまいりました。ただし、担当科目によっては休憩を取る時間がなくなってしまうことをご迷惑を掛けてしまいました。

本年度の開催も残り3日間となりましたが、最後まで受講者のために最善を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー 開催報告

秋田県

公益社団法人秋田県診療放射線技師会 副会長 大村 知己

令和7年度公益社団法人秋田県診療放射線技師会フレッシューズセミナーが、2024年8月23日(土)に開催されました。参加者は県内施設入職の新卒者11人、および関係者でした。本年は学術研修会と同日に開催し、フレッシューズセミナーとしてのプログラムに加え、研修会プログラムにもご参加いただきました。社会人・医療人としての素養に加え、診療放射線技師として必要な日常業務でのAI技術に関する知識も習得する機会になったと思われます。参加者の皆さんは全員が現地参加され、聴講中は熱心に聞き入り、メモを取る姿勢がとても印象的でした。就職から間もなく半年が過ぎ、仕事にも少し慣れてきた頃と思います。これからも初心を忘れずに、先輩方と共に地域医療のためにご尽力いただければと思います。その中で、今回のセミナーで得た知見もご活用くだされば幸いです。



2025年度 公益社団法人日本診療放射線技師会 関東甲信越診療放射線 技師学術大会 開催報告

公益社団法人神奈川県放射線技師会
会長 田島 隆人

2025年7月5日(土)・6日(日)の2日間にわたり、パシフィコ横浜会議センターで、2025年度関東甲信越診療放射線技師学術大会を開催しました。神奈川での開催は12年ぶりとなり、目まぐるしく進化する医療の中で、われわれ診療放射線技師も新たな技術と知識を共有し、新しい未来を共に創り上げていくことを願い、開港の地横浜から、大会テーマを「多様化する医療との共創～開港の地から未来につなぐ～」として開催しました。開催期間中は好天に恵まれ、会員・非会員・学生を含め、2日間で延べ600人もの参加者が集いました。本大会では、一般口述研究発表81演題(学生発表を含む)のご登録を頂き、活発な討議がなされ、明日からの業務につながるセッションとなりました。

特別講演では、神奈川県健康医療局 由利直人さまによる



児玉副会長あいさつ



JJシンポジウム

「神奈川県感染症対策～コロナ禍から学ぶ現状と今後の課題～」や、JART 駐元顧問と上田会長による、今後に向けた診療放射線技師の展望・役割についてのビデオ講演、教育セミナー・講演では、国際医療福祉大学成田病院 五十嵐隆元先生より「Japan DRLs 2025 の概要」、藤沢市民病院 谷掛雅人先生による「急性腹症のCT診断～予期しない危険な疾患を見逃さないための6つのCheckPoint～」、自治医科大学 菊地智博先生の「放射線部門で活きる医療AIの周辺知識」と、未来に向けた講演となりました。

シンポジウムでは新たな取り組みとして、JSRT・JART 合同企画「次世代診療放射線技術の展望～最新の技術革新が現場に与える影響や、今後求められる技術者の役割について～」と題し、JSRT 関東支部・東京支部とのコラボセッションを開催し、次世代に向けた討論会を展開しました。また関東甲信越診療放射線技師会1都9県の取り組みを紹介する企画も展開し、各都県技師会の特徴や工夫の理解を深める良い機会となりました。

市民公開講演では 俳優・朗読座主宰 紺野美沙子さまを招き、「今、私たちにできること～朗読『星は見えている』とともに～」と題し、広島原爆投下時の史記を基にした朗読による講演を頂き、市民および大会参加者を合わせて118人の方が聴講されました。

そして今回の大会では、同時開催として東京都診療放射線技師会企画の国際セッションも展開し、ソウル特別市放射線士会 パク会長をはじめとした9人の診療放射線技師の皆さまも参加され、新たな一歩を踏み出した大会となりました。

情報交換の場としては、横浜らしく、屋形船による懇親会を企画し、海上からの花火を見物しながら、大盛況の下に終了しました。

文末になりますが、南・北関東甲信越地域理事、1都9県の会長ならびに大会をご支援いただいた37社の関連企業の皆さま、そして大会初の電子抄録へのご理解を頂いた多くの参加者の皆さまに、この場をお借りして感謝申し上げます。来年の茨城大会で、皆さまにお会いできることを楽しみにしています。



懇親会

2025年度レントゲン週間イベント(市民向けイベント)の紹介

INFORMATION

本年度の本会共催／後援のレントゲン週間イベント(市民向けイベント)が以下の通り開催されます(すでに終了したイベントも含む)。詳細は、各都府県(診療)放射線技師会にお尋ねください。

地域	技師会名	申請内容	開催日	開催市	会場	イベント名
北海道	(一社)北海道放射線技師会 (旭川放射線技師会)	共催	9月23日(火・祝)	旭川市	道北アークス大雪アリーナ	あさひかわ健康まつり
北海道	(一社)北海道放射線技師会	共催	10月 5日(日)	釧路市	釧路市観光国際交流センター	くしろ健康まつり2025
北海道	(一社)北海道放射線技師会	共催	8月30日(土)	札幌市	札幌駅前通地下歩行空間 「チ・カ・ホ」	北海道医療技術者団体連絡協 議会 パネル展
東北	(公社)秋田県診療放射線技師会	共催	11月15日(土)	秋田市	秋田駅前	医療放射線画像展2025
東北	(一社)岩手県診療放射線技師会	共催	11月16日(日)	紫波郡 矢巾町	矢巾町公民館	令和7年度 市民公開講演会
東北	(公社)福島県診療放射線技師会	共催	10月26日(日)	郡山市	星総合病院 ポラリス保健 看護学院 メグレスホール	令和7年度 福島県診療放射線 技師学術大会 一般公開講演
北関東	(一社)新潟県診療放射線技師会	共催	9月13日(土)・ 14日(日)	長岡市	アオーレ長岡(長岡市役所)	すこやか・ともしびまつり2025
北関東	(公社)茨城県診療放射線技師会	共催	9月20日(土)・ 11月 1日(土)	水戸市・ つくば市	9月20日:イオンモール水戸内原 11月1日:イースつくば	放射線展・ピンクリボン活動
北関東	(一社)群馬県診療放射線技師会	共催	10月11日(土)・ 12日(日)	前橋市	ALSOKぐんま総合スポーツ センターふれあいグラウンド	リレー・フォー・ライフ・ ジャパン2025ぐんま
南関東	(公社)東京都診療放射線技師会	共催	11月 1日(土)・ 2日(日)	大田区	平和の森公園	OTAふれあいフェスタ2025
南関東	(公社)神奈川県放射線技師会	共催	9月27日(土)	藤沢市	JR藤沢駅 南北コンコース	第50回藤沢市民まつり
中日本	(公社)石川県診療放射線技師会	共催	9月27日(土)・ 28日(日)	金沢市	金沢健康プラザ大手町 東館・西館	第46回健康づくりフェア
中日本	(公社)福井県診療放射線技師会	共催	11月30日(日)	福井市	ショッピングシティ ベル 3階 あじさいホール	令和7年度 健康フェア
中日本	(公社)静岡県放射線技師会	共催	11月15日(土)・ 16日(日)	沼津市	キラメッセめまづ 多目的 ホール	メディメッセージ2025
中日本	(一社)三重県診療放射線技師会	共催	11月15日(土)	津市	鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパス3513	レントゲン祭
近畿	(公社)滋賀県診療放射線技師会	共催	10月19日(日)	大津市	明日都浜大津	2025おおつ健康フェスティバル
近畿	(公社)京都府診療放射線技師会	共催	11月 3日(月・祝)	京都市	京都府立植物園	府民交流フェスタ
近畿	(一社)和歌山県診療放射線技師会	共催	11月 3日(月・祝)	和歌山市	スーパーセンターオークワ パームシティ和歌山店	和歌山県診療放射線技師会レント ゲン週間イベント 放射線パネル展
中四国	(公社)広島県診療放射線技師会	共催	11月16日(日)	広島市	紙屋町シャレオ 中央広場	レントゲン週間2025(広島県)
中四国	(一社)島根県診療放射線技師会	後援	11月 8日(土)・ 9日(日)	出雲市	健康公園出雲ドーム	2025レントゲン週間・ピンクリボン フェスタ「あなたのための医療放射線展」
九州	(一社)熊本県放射線技師会	共催	10月 5日(日)	熊本市	熊本城ホール	熊本市市民健康フェスティバル
九州	(公社)福岡県診療放射線技師会	共催	9月14日(日)	久留米市	久留米シティプラザ 六角堂広場	第24回健康21世紀福岡県大会
九州	(一社)長崎県診療放射線技師会	共催	10月19日(日)	大村市	南島原市有家保健センター	令和7年度 南島原市健康福祉 まつり
九州	(一社)佐賀県放射線技師会	共催	2026年 2月8日(日) 予定	佐賀市	佐賀市文化会館 イベント ホール	第19回 レントゲン週間
九州	(公社)鹿児島県診療放射線技師会	共催	10月12日(日)	鹿児島市	西原商会アリーナ	令和7年度 第2回市民まつり



第1回

第42回 日本診療放射線技師学術大会

山形への道 Go To YAMAGATA

大会長 鈴木 幸司

(一般社団法人山形県放射線技師会 会長)



INFORMATION

学術大会開催のお知らせ

第42回日本診療放射線技師学術大会を2026年9月11日(金)から13日(日)までの3日間、山形国際交流プラザ 山形ビッグウイングで開催致します。終了後はオンデマンド配信も予定しております。

今回の大会テーマは「新たな潮流 紡ぐ灯 人とAIがもたらす放射線技術の未来」と致しました。急速に進展する医療DXやAI技術、タスク・シフト/シェアによる業務拡大といった環境の変化の中においても、私たち診療放射線技師がこれまで先人たちから受け継いできた知識・技術・使命感を大切に、未来へとつないでいくという意味を「灯」という言葉に込めました。またAIが画像診断や業務支援において力を発揮する今、私たちは技術者としての専門性を深化させると同時に、患者と向き合う医療人としての倫理観やコミュニケーション力も問われています。これは、2025(令和7)年度のJARTスローガン「安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう」にも通ずるところと考えます。変わりゆく環境の中で、変わらないものを守り、新しい未来を考える大会にできるよう実行委員一同準備してまいります。この大会が皆さんの心に新たな光を灯し、これからの診療放射線技術の未来を考えるきっかけとなることを願っています。



山寺【宝珠山立石寺】

ここで、大会テーマやポスターにも載せている「不滅の法灯」の話を少しさせていただきます。会場の近くには「閑さや 岩にしみ入る 蟬の声」という松尾芭蕉の句で有名な山寺【宝珠山立石寺(ほうじゅさんりっしゃくじ)】があります。宝珠山立石寺は、860年、比叡山延暦寺の別院として慈覺大師円仁(じかくだいしえんにん)により創建されました。堂内には1200年前に比叡山延暦寺から分灯された「不滅の法灯」が今も灯されています。1200年もの間、今も絶やさず灯し続けているこの法灯より、大会テーマのヒントを得ました。この「不滅の法灯」は1521年、兵乱により立石寺と共に一度消失しましたが、1543年の再建時に再び延暦寺から分灯されました。その後、1571年になり織田信長により延暦寺が焼き打ちに遭ったときには、延暦寺の「不滅の法灯」も消失してしまいましたが、江戸時代になり復興した際には、逆に立石寺の法灯が延暦寺に分灯されたという歴史的経緯があります。ぜひ、実際に足を運んでみてください。

さて、9月の山形はまさに食の宝庫です。ぜひ味わっていただきたいのが、秋の風物詩、芋煮です。その他、山形県は「フルーツ王国」とも呼ばれ、9月には多種多様な果物が旬を迎えます。さらに「ラーメン県

そば王国」を標榜する山形の、地域ごとの個性豊かなラーメンやそばの文化にも触れてみてください。全国に誇るブランド米「つや姫」や、芳醇な香りの日本酒も見逃せません。この「山形への道」の中でも、たくさんの山形の魅力を紹介していく予定です。

学会での学びを深めるだけでなく、山形の豊かな食文化に触れ、心もおなかも満たされる滞在となることを願っています。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



芋煮

**第42回**

The 42nd Japan Conference of Radiological Technologists

日本診療放射線技師学術大会

第33回 東アジア学術交流大会

The 33rd East Asia Conference of Radiological Technologists (EACRT)

新たな潮流 紡ぐ灯

人とAIがもたらす放射線技術の未来

JARTスローガン

安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう

日時

2026
9/11 Fri - 13 Sun

場所

山形ビッグウイング
(現地開催+オンデマンド)

立石寺 (山寺) 不滅の法灯

会長

上田 克彦

公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長

主催

公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催

一般社団法人 山形県放射線技師会

大会長

鈴木 幸司

一般社団法人 山形県放射線技師会 会長

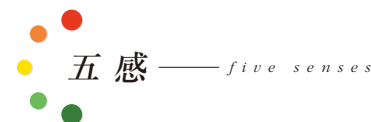
後援

厚生労働省 (予定) / 公益社団法人 日本放射線技術学会
山形県 / 山形市 (予定)

大会事務局

一般社団法人山形県放射線技師会
〒990-9585 山形県山形市飯田西 2-2-2
山形大学医学部附属病院放射線部内Tel : 023 (628) 5786 Fax : 023 (628) 5799
E-mail : 42jart@gmail.com

戦後80年に『雪風』を見て

シリーズ連載
series serialization

定年後、縁あって第二の技師人生を鈴鹿医療科学大学で始めることとなった。想像とは違い、あまりの忙しさに教員寮に住み、この歳から単身赴任生活を送っている。実家に帰るのは週に1度、大量の洗濯物を持っての帰宅となる。

この生活でのうれしいおまけは、「家内が少し優しくなったこと」(笑)。先日も家内の方から「映画でも見に行こう」と誘われ、偶然『雪風』を見ることとなった。あまり期待もせず見たのだが、最初に結論を伝え、本当に感動し、何度も泣ける、ぜひ見てほしい映画であった。

太平洋戦争中に実在した駆逐艦「雪風」、数々の激戦を最前線で戦いながら最後まで戦場にとどまり、沈没する僚艦から海に投げ出された仲間たちを救助して無傷で帰還することから「幸運艦」と称された。時には敵兵にも手を差し伸べたといわれている。

戦争映画でありながら、この映画の主軸には「生きて帰る生きて還す」という命の大切さや尊さを、真正面から描いてい

るところに心が揺さぶられる気がした。また竹野内豊が演じる雪風艦長のリーダーシップには、憧れ学ばされる場面が多くあった。武士道を支えとし、保身に走らず、的確に仲間や部下を導き、鼓舞し、間違いは叱責し正す。艦底に刺さった不発弾の解体現場からも離れず、部下と運命を共にする覚悟には、こういう上司の下で仕事がしたいという思いと、自分はこんなふうに部下に信じてもらえていただろうか。背中言葉を語れていただろうかと技師長時代の自分の姿を問い直した。

くしくも今年は戦後80年。実際の戦争体験者が少なくなり、戦争の悲惨さや平和の尊さへの思いを私たち世代が受け継ぎ、そして次世代につないでいくことの大切さを問われた年でもあったと思う。私自身『雪風』を見て平和への思いは確実に強く刻まれたと実感している。さて、これをどうつなげるのか、問い掛けられている気がした戦後80年の夏であった。

(文責：界外 忠之)

10月・11月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- STAT画像所見報告セミナー : Web開催 2025年11月 7日(金)
- がん対策委員会 Webセミナー : Web開催 2025年11月16日(日)
- 認定資格試験：全国のCBTテストセンターのパソコンで試験を実施(テストセンター一覧：<https://cbt-s.com/examinee/testcenter/>)
2026年 1月18日(日)まで実施

- 告示研修(実技研修)/業務拡大に伴う統一講習会：
本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

[e-ラーニング(ストリーミング方式)]

- 医療放射線安全管理責任者講習会 2025年10月14日(火)午前0時から2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 死亡時画像診断(Ai)研修会 2025年11月10日(月)午前11時から2026年2月2日(月)午後3時まで(予定)
※e-ラーニング形式。お問い合わせは日本医師会 医事法・医療安全課 03-3942-6506まで。
・e-ラーニング：2025年11月25日(火)午前10時から2026年1月31日(土)午後1時まで
※e-ラーニングは、配信期間中であれば繰り返し受講可能。
配信期間内に修了しなかった場合は集合研修のご案内を致しません。
・集合研修：2026年 2月 8日(日)【オンライン演習】
※集合研修の受講は、e-ラーニング(36時間)を全て受講した者に限る。
- 認定資格の取得を目指す在宅講習 2025年12月19日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から各認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。
※本講習会を修了しませんが、認定資格試験のお申し込みはできません。
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修(在宅) 2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 告示研修(基礎研修) 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。
- オンラインセミナー(在宅)：本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム(JARTIS)をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。